

小説のセリフの書き分けに使われる文末形式

佐藤理史 (名古屋大学大学院工学研究科)

Utterance-Final Forms Used for Speaker Identification in Japanese Novels

Satoshi Sato (Graduate School of Engineering, Nagoya University)

要旨

日本語の小説では、主要登場人物 (キャラクタ) のセリフを、人物毎に異なる話し方スタイルで記述する技法がしばしば用いられている。「セリフの書き分け」と呼ばれるこの技法は、日本語の話し言葉に、スタイルに関わる多くの選択肢が存在していることを利用している。本稿では、エンターテインメント小説・ライトノベル 10 作品に登場する 24 名のキャラクタのセリフから文末の形式を収集し、整理・分析を試みる。整理・分析では、(1) 調査対象とする文末形式の範囲を定め、(2) それらを機能・意味に基づいて分類した後、(3) 話し手に応じて置換可能と考えられる文末形式の選択肢集合を整理する。

1. はじめに

日本語の小説では、「セリフの書き分け」と呼ばれる技法がしばしば用いられる。この技法は、小説内のセリフを登場人物毎に異なるスタイルを用いて記述し、それによって、登場人物がどんなキャラクタであるかを読者に暗示したり、セリフの話し手を暗黙的に伝えたりする効果を狙うものである。特にライトノベルでは、この技法の使用が顕著である。

セリフの書き分けに利用される要素には、多くのものが考えられる。小川 (2006) は、男女差を示す要素として以下の 10 要素を列挙している。

1. 終助詞 (文末表現)
2. 呼称 (1 人称、2 人称、3 人称)
3. 音変化 (促音化・長音化・音便化)
4. イントネーション
5. 語彙 (副詞、「お」、～じゃん・奴・食う etc.)
6. 文法 (主語の欠如、格助詞の欠如・体言止め)
7. 敬語 (ていねいさ)
8. パラ言語
9. 聞き手の性別 (社会的地位)
10. その他 (呼びかけ、言いよどみ、繰り返しの表現 etc.)

(小川 (2006):40 頁)

これらの要素は、男女差に留まらず、セリフの書き分けやキャラクタ造型にも使用されると考えられる。

本研究では、上記の要素のうち、終助詞を中心とした文末表現に焦点を当て、エンターテイメント小説・ライトノベルのセリフを対象に、その使用実態を調査・分析する。

本研究は、我々が進めている「口調ベクトルによる小説セリフの話者同定」の研究(石川ほか(2023), 川北ほか(2024), 石川ほか(2024))から派生している。口調ベクトルとは、ニューラルネットによって実現された変換器(口調エンコーダ)にセリフを入力することによって得られる、64次元のベクトルである。口調エンコーダは、出力する口調ベクトルに、セリフのスタイル的な特徴(口調)が反映されるように設計されている。話者同定は、次のように行う。まず、それぞれの話者に対してセリフの実例を集め、それらの口調ベクトルの平均を計算して話者ベクトル(代表口調ベクトル)を作成する。話者が未知のセリフの話者を同定する際は、そのセリフを口調ベクトルに変換し、話者候補の話者ベクトル群と比較して最も似ている(距離が近い)話者ベクトルを求め、その話者を推定話者とする。

口調ベクトルの有効性は、小説のセリフの話者を推定する実験(石川ほか(2023, 2024))、および、口調弁別評価データセットを用いた実験(川北ほか(2024))において確かめられている。しかし、口調ベクトルはニューラルネット(ブラックボックス)によって作成されるため、実際にどのような情報が埋め込まれているかは不明である。そこで、セリフが持つ言語的な特徴を整理し、その結果と口調ベクトルとを比較することによって、口調ベクトルの性質を明らかにしたいと考えている。

今回の文末形式の整理の具体的な目標は、キャラクターに応じて置換可能と考えられる文末形式の選択肢集合を設定することである。たとえば、次の発話文を考えよう。

(1) 出迎えてくれるなんて嬉しいわね [3D:134]⁽¹⁾

この発話文の話し手は女性キャラクターであるが、話し手が異なれば、次のような発話文となっても不自然ではない。

- (2) a. 出迎えてくれるなんて嬉しいよね
b. 出迎えてくれるなんて嬉しいよな
c. 出迎えてくれるなんて嬉しいじゃない

これらの発話文は、いずれも、「話し手が嬉しいという気持ちを抱いたことを表明する」(ことを読者に伝える)点において同一の機能を果たす。その一方で、文末形式の違いが、話し手がどんなキャラクターであるかを読者に想像させる手がかりとなる。ここで示した{わね, よね, よな, じゃない}のような選択肢集合を作成することが、今回の整理の目標である。

2. 調査対象のセリフデータ

本研究で利用した作品と収集したセリフデータの概要を表1に示す。これらのうち、作品2, 6, 10は、いわゆるライトノベル(大森・三村(2004), 石井ほか(2022))に分類される作品である。作品3はマンガを原作とするスピンオフ小説であり、ライトノベルに分類できると考えら

⁽¹⁾ 2節で述べるセリフデータに含まれる発話文は、出典情報を[キャラクターID: ページ番号]、または、[作品ID: ページ数]の形式で示す。

表1 利用作品一覧

ID	著者	タイトル	文庫レーベル	出版年	初版	セリフ	発話文
1	はやせこう	庶務省総務局 KISS 室制作白書	ハヤカワ文庫 JA1471	2021		85	142
2	鴨志田一	青春ブタ野郎はバニーガール先輩の夢を見ない	電撃文庫	2014		106	122
3	八目迷	小説葬送のフリーレン 前奏	少年サンデーコミックス スペシャル (小学館)	2024		247	352
4	笹本祐一	ブルー・プラネット	創元 SF 文庫	2022	2000	91	124
5	東野圭吾	探偵ガリレオ	文春文庫	2002	1998	76	125
6	蒲池和馬	ヘヴィーオブジェクト	電撃文庫	2009		59	122
7	野崎まど	know	ハヤカワ文庫 7212	2013		59	84
8	有川浩	図書館戦争	角川文庫 16777	2011	2006	80	119
9	近藤史恵	マカロンはマカロン	創元推理文庫	2020		75	117
10	丸戸史明	冴えない彼女の育て方	ファンタジア文庫 1928	2012		185	236
						1063	1543

れる。作品4と7はSF、作品5と9は推理もの、作品1と8はエンターテインメント小説である。なお、作品中のセリフに、いわゆる「キャラ語尾」(金水(2003))が多用される作品は選ばなかった。

セリフデータの作成に当たっては、まず、それぞれの作品において、複数のキャラクターが対話している数ページを選定し、その範囲に含まれる全セリフとその話し手を手入力で電子化した⁽²⁾。総セリフ数は1,063件である。

その後、各セリフをプログラムで文に分割した。具体的には、セリフに句点または全角空白⁽³⁾が含まれる場合、その直後で分割し、句点と全角空白は削除した。この結果、総文数は1,543文となった。以降、これらの文を便宜的に発話文と呼ぶ。

表2に、セリフ数が25件以上のキャラクター24名のセリフ数・発話文数を示す⁽⁴⁾。併せて、キャラクターの性別と簡単な紹介、および、キャラクター間の関係を付記した。

3. 文末形式付与のガイドライン

本研究では、終助詞を中心とした文末表現に焦点を当てるが、具体的にどの範囲の文末形式を対象とすべきかは自明ではない。というのも、例文(2c)の「じゃない」のように、終助詞以外にも終助詞と置換可能で、終助詞相当の機能を果たしているとみなせる文末形式が存在するからである。このため、対象とする文末形式を定めることも、本調査の検討項目に含まれる。

先に示したセリフデータを観察し、置換可能性や出現数等を考慮して、文末形式付与のガイドラインを次のように定めた。

1. 次のいずれかの条件を満たす発話文に文末形式を付与する。
 - (a) 文末の活用語の活用形が終止形またはタ形で、かつ、以下に示す文末形式の構成要素(終助詞等)が後続する文

⁽²⁾ 作品8のみ、過去にOCRを利用して電子化したデータを利用した。

⁽³⁾ 対象とした小説作品はすべて縦書きで、文末記号として使われる疑問符・感嘆符の直後には全角空白が存在する。

⁽⁴⁾ セリフがある登場人物は全部で37名である。

表2 主要キャラクター一覧

ID	キャラクタ名	性別	紹介 [関係]	セリフ	発話文
1A	中村	M	有能な一般職職員	34	42
1B	島崎	F	少し問題があるキャリア官僚 [上司]	45	94
2A	梓川咲太	M	高校生	48	54
2B	桜島麻衣	F	元女優の高校生 [上級生]	58	68
3A	カンネ	F	魔法学校生, 平民	51	72
3B	ラヴィーネ	F	魔法学校生, 名家令嬢 [同級生で友人]	70	95
3C	ルイザ	F	魔法学校生, 名家令嬢 [同級生]	29	46
3D	アウラ	F	魔族	51	76
3E	リュグナー	M	魔族 [部下]	34	46
4A	マリオ	M	とても若い有能オペレータ	43	60
4B	スウ	F	とても若い天才研究者 [元同級生]	30	41
5A	湯川	M	大学助教授, 物理学専門	39	72
5B	草薙	M	捜査一課刑事 [大学の元同級生]	37	53
6A	クウェンサー	M	派遣留学生-工兵, 平民	28	57
6B	ヘイヴィア	M	兵士-レーダー分析官, 貴族嫡男 [相棒]	29	62
7A	御野	M	有能な高級官僚	25	45
7B	三縞	F	有能な高級官僚 [部下]	32	37
8A	笠原	F	熱血な 20 代図書隊員	33	45
8B	柴崎	F	知性派の 20 代図書隊員 [ルームメイト]	46	73
9A	安倍	F	食料品店経営, レストランの客, 30-40 代?	28	53
10A	安芸倫也	M	オタク高校生	70	92
10B	加藤恵	F	普通の高中生 [同級生]	41	54
10C	澤村・スペンサー・英梨々	F	高校生イラストレータ [同級生, 幼馴染]	35	44
10D	霞ヶ丘詩羽	F	高校生ラノベ作家 [上級生, 元カノ?]	39	46

- (b) 文末の活用語の活用形が意志形の文で、単なる推量以外の意味を持つ文
- (c) 文末の活用語の活用形が命令形の文
- (d) 文末の活用語の活用形がテ形で、命令・依頼を意味する文
2. 発話文が倒置形式で、その発話文の範囲で倒置を戻すと上記の条件を満たす場合は、文末形式を付与する。
3. 文末形式に含める要素は、おおむね、以下とする。
- 疑問符
 - 終助詞 (必要の応じて広く解釈する)
 - 「です・ます」⁽⁵⁾
 - 「んだ・のだ」
 - 「だろう・でしょう」
 - 「じゃない」
 - 「テ・テくれ・テください・テくれる?・テくれない?」
4. 文末形式の記述形式 (ラベル) は、構成要素の表層形をつなげたものとする。ただし、
- 音変化は正規化する (ただし、「んだ」と「のだ」は区別する)
 - 「です・ます・ない」等のテンスは無標に統一する。例:「ましたよ → ますよ」

⁽⁵⁾ 「です・ます」以外に要素が存在する場合に限る。

- 「ます」の否定形は肯定化する。例：「ませんか → ますか」

以下では、上記のガイドラインを補足する。

- 発話文には、文の形式をとらないものが含まれる。これらには、文末形式は付与しない⁽⁶⁾。
- 終助詞等を含まずに述語の終止形・タ形でそのまま終わる発話文は、主に情報を伝達する機能を持つが、文の意味や文脈に応じて色々な機能を持ちうる。本研究では、これらの発話文は扱わない。
- 文末形式の記述形式(ラベル)では、意志形は「ウ」、テ形は「テ」と略記する。命令形はそのまま「命令形」と表記する。
- 記号は、疑問符のみを含める。感嘆符や3点リーダー等の記号は無視する。感嘆符と疑問符が1文字化した「!？」は疑問符扱いとする。
- 以下の区別を採用する
 - － 終助詞の「ね・よ」

判定詞型の述語の終止形「だ」に接続する場合、「だ」の直後に接続する場合と、「だ」が消失する場合がある。前者を「Dね・Dよ」、後者を「Xね・Xよ」として区別する。
 - － 「の」

「です・ます」に後続する「の」は、「丁寧の」として区別する。それ以外の末尾の「の」は、「のだ」の「だ」が消失したものと考えられる(日本語記述文法研究会(2003))が、「の」と「のだ」は区別する。
 - － 「？」

判定詞型の述語に接続し、「か」が省略された形とみなせる場合は、「X？」として区別する。
- 丁寧体である「です・ます」は、話し手と聞き手との関係の影響も大きいですが、キャラクター造型にも関わるので、文末形式に含める。ただし、「です・ます」のみの場合は、文末形式を付与しない。
- 「んだ・のだ」「だろ(う)・でしょ(う)」「じゃない」は、色々な機能を持ち、多くの場合に終助詞と置換可能のため、文末形式に含める。
- 本調査では、モダリティを表す助動詞の類(たとえば、「からだ(理由説明)」、「ほうがいい(提言・示唆)」など)⁽⁷⁾は原則として文末形式に含めないが、例外的に、依頼・命令を表す「テ・テくれ・テください・テくれる?・テくれない?」を文末形式に含める。これは、「テくれ・テください」の活用形が命令形とみなせるからであり、残りの「テ・テくれる?・テくれない?」が、その類似形式だからである。
- 文末形式の決定には、表層形だけでなく、その意味・機能も考慮する。たとえば、単な

⁽⁶⁾ 従属節の形式とみなせる、いわゆる「言いさし文」(白川(2009))も考慮対象とすべきだが、現時点では保留とする。

⁽⁷⁾ 出現は非常に少ない。出現したのは「からだ(6)、たくない(2)、たい(1)、テいいか?(2)、テもらえるか(1)、ほうがいい(6)」の18例のみであった。

表3 発話文の形式

	頻度	%	付与	%
文の形式	1085	70.3	816	75.2
従属節の形式	174	11.3		
その他	284	18.4		
合計	1543	100	816	52.9

表4 文末形式の機能分類体系

大分類	機能ラベル	主要な形式	説明	付与数
伝達・表明	伝達	よ	情報を伝える	189
	同意前提伝達	だろ	聞き手に同意されることを前提として情報を伝える	17
	伝聞伝達	って	聞き手に伝聞情報として伝える	10
	警告	ぞ	聞き手に警告する	2
	認識表明	ね	話し手の認識として伝える	208
	理由表明	もの	話し手が理由を表明する	12
	意志表明	ウ(意志形)	話し手の意志を示す	20
	働きかけ	提案・勧誘	ウか	聞き手に提案・勧誘する
禁止		な	「してはいけない」と聞き手に伝える	19
命令		命令形	「しろ」と聞き手に命令する	29
依頼		テくれ	「してくれ」と聞き手に依頼する	29
質問・確認		確認要求	よね?	聞き手に確認を要求する
	記憶確認	っけ?	話し手の記憶の確認を聞き手に要求する	10
	問い返し	だと?	直前の質問に問い返す	5
	質問	か?	聞き手に問いかける	164
	自問	かな?	自分に問いかける	15
独話的	気づき	か、のか	気づいたと口にする	33
	詠嘆	なあ	詠嘆の気持ちを表す	5

る推量を意味する「だろう」や単なる否定を意味する「じゃない」には、文末形式を付与しない。

表3に、発話文の形式と、文末形式を付与した発話文数を示す。先に示したように、発話文の総数は1,543文である。このうち、文の形式と認められる発話文は1,085文あり、そのうちの816文に文末形式を付与した。

4. 文末形式の機能分類体系

文末形式の置換可能性を考えるためには、その形式がどんな機能・意味を担っているかを把握する必要がある。そこで、発話文に付与した文末形式を機能・意味に基づいて分類し、機能ラベルを付与する。分類体系の設計では、『現代日本語文法4第8部モダリティ』(日本語記述文法研究会(2003))と『助詞・助動詞の辞典』(森田(2007))を参考に、実際の発話文に機能分類ラベルを付与する作業を何回か繰り返して調整し、最終的に表4に示す体系を設定した。

この体系では、4つの大分類の下に、合計18の機能ラベルを設定している。

- 大分類〔伝達・表明〕は、聞き手に情報を伝えることに主眼がある発話文である。
- 大分類〔働きかけ〕は、聞き手に行動(または非行動)を働きかける発話文である。
- 大分類〔質問・確認〕は、聞き手に問いかけることに主眼がある発話文である。ただし、機能ラベル〔自問〕は、例外的に話し手が自分に問いかける発話文であるが、形式的類

似性に基づき、〔質問・確認〕に含める。

- 大分類〔独話的〕は、必ずしも聞き手を必要としない、独話的 (非対話的) 性質を持った発話文である。

なお、上記の大分類以外に、終助詞の用法として間投用法があるが、本研究では、文末の終助詞に間投用法を認めないため、分類体系には含まれない。

これらの分類の一部は連続的である。同一の文末形式でも、文脈等により異なる機能を持つことを認める。たとえば、文末形式「でしょ」は、聞き手に内容の確認を求めているとみなせる場合は〔確認要求〕に分類するが、特に確認を求めているとみなせる場合は〔同意前提伝達〕や〔認識表明〕に分類する。このように、ラベル付与作業は内容・文脈依存であり、かつ、作業者のテキスト解釈に依存する。

本研究では、機能ラベル付与作業は、すべて著者が行った。なお、各機能ラベルの付与基準は、次節で述べる。

表4には、機能ラベルの付与数も示した。付与数の多い機能ラベルは、〔認識表明〕(208)、〔伝達〕(189)、〔質問〕(164)の3つで、これらで全体の68.8%(=561/816)を占める。

5. 文末形式の整理と置換可能性

5.1 整理の方針

本節では、機能分類体系の大分類毎にラベル付与基準を示した後、機能ラベル毎に調査で出現した文末形式を整理して、それらの置換可能性を検討する。

整理段階では、まず、ほとんどの場合に置換可能と考えられる文末形式をグループ化し、代表形(ラベル)を設定する。具体的には、次のような違いを持つ一連の文末形式をグループ化する。

- 「です・ます」の有無の違い
- 疑問符の有無の違い⁽⁸⁾。ただし、「の」と「の？」のように明らかに機能が異なる場合は区別する
- 末尾の「う」を表記するかしないかの違い。例：「だろ(う)・でしょ(う)」
- 「だ」の消失の有無(「D・X」)の違い

次に、文末形式の代表形を、構成要素に基づいて類としてグループ化する。その後、類内・類間の置換可能性を検討する。

多くの機能ラベルにおいて、「んだ・のだ」の有無の違いが観察される。「んだ・のだ」を必要とするか否かは、直前の述語の種類・形式(活用型・活用形)や文脈等に強く依存する。そのため、「んだ・のだ」を含む形式と含まない形式は、異なる類に分類する。同時に、含む形式と含まない形式の置換可能性は、原則として議論しない。

(8) 明確に質問と分かる場合に疑問符を付与するか否かは、作品の作者によって異なる。

表5 伝達、同意前提伝達、伝聞伝達、警告の文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度		
伝達	I	よ	よ (24), Dよ (12), Xよ (15), Xよ?, ですよ (3), ますよ (5), よお	61		
		ぜ	ぜ (4)	4		
		ぞ	ぞ (9), ぞ? (2)	11		
		さ	さ (8)	8		
		わ	わ (6), ますわ (3)	9		
		わよ	わよ (6), ますわよ	7		
		丁寧の	ますの	1		
	II	んだ	んだ (15), んです (16)	31		
		んだぜ	んだぜ	1		
		んだぞ	んだぞ (2)	2		
		んだよ	んだよ (15), んですよ (2)	17		
		んだよね	んだよね	1		
		の	の (16)	16		
		のさ	のさ	1		
		のだよ	のですよ	1		
		のよ	のよ (17)	17		
		のよね	のよね	1		
		同意前提伝達	I	だろ	だろ (5), タろ	6
				でしょ	でしょ (8), でしょう	9
II	んだろ		んだろ	1		
	んでしょ		んでしょ	1		
伝聞伝達	I	って	って (5)	5		
		ってさ	ってさ (4)	4		
	II	んだと	んだと	1		
警告	I	ぞ	ぞ, ぞ?	2		

5.2 伝達・表明の文末形式

大分類〔伝達・表明〕は、聞き手に情報を伝えることに主眼がある発話文である。この大分類を、〔伝達〕、〔同意前提伝達〕、〔伝聞伝達〕、〔警告〕、〔認識表明〕、〔理由表明〕、〔意志表明〕の7種類に細分する。これらのうち、〔伝聞伝達〕、〔警告〕、〔理由表明〕、〔意志表明〕のラベル付与は比較的容易であるが、〔伝達〕、〔同意前提伝達〕、〔認識表明〕の3つは連続しており、難しい。おおむね、話し手の考え・判断・評価・感情などを伝える場合には〔認識表明〕を付与し、それ以外の場合で「だろ・でしょ」の形式をとるものに〔同意前提伝達〕を、残りに〔伝達〕を分類する。これらの文末形式を表5、表6、表7に示す。なお、表の括弧内の数字は、それぞれ文末形式の頻度を示す(頻度1の場合は省略)。

〔伝達〕は、聞き手に情報を伝える発話文である。I類は「よ」を中心とした終助詞、II類は「んだ・のだ」を含む形式である。いずれの類も、類内の置換可能性は高い。

(3) 伝達

- a. 溜まっていたメールはもう処理したよ [7A:27] <I: よ>
- b. これは尊厳の問題だよ [3:138] <I: Dよ>
- c. 失われた衛星よ [4B:83] <I: Xよ>
- d. 手え震えてんぞ [3B:103] <I: ぞ>

- e. これがさっきの手品の正体さ [5B:27] 〈I: さ〉
- f. あなたの企画書、一通り目を通させてもらったわ [10D:11] 〈I: わ〉
- g. 君の噂、聞いたわよ [2B:40] 〈I: わよ〉
- h. 私、実戦の心得はありますけど、一人ではどうにも心細くって……どなたか共に戦ってくださらないかしら、とお相手を探しておりましたの [3C:91] 〈I: ますの〉
- i. いま、明後日からのウラジオストク出張の準備をしているんです [1A:11] 〈II: んです〉
- j. 前に森に入っていくところを見たんだよ [3B:84] 〈II: んだよ〉
- k. なんとなく気まぐれで江の島の水族館に行ったの [2B:53] 〈II: の〉
- l. 情報網ってのは広げ方にコッがあんのよ [8B:31] 〈II: のよ〉

〔同意前提伝達〕は、聞き手が同意することを前提として情報を伝える発話文である。情報の伝達に主眼があり、聞き手に確認することに主眼がない場合に、〔同意前提伝達〕に分類する⁽⁹⁾。I類は「だろ」、II類は「んだ+だろ」の形式である。類内は置換可能である。

(4) 同意前提伝達

- a. 川本の結婚披露宴で会っただろ [5A:26] 〈I: だろ〉
- b. 子供の頃、給食でかならず牛乳が出たでしょ [9A:28] 〈I: でしょ〉
- c. だから、これからブリーフィングでそれを聞くんだろ [6A:250] 〈II: んだろ〉

〔伝聞伝達〕は、聞き手に伝聞情報を伝える発話文である。「って・と」のような、いわゆる引用助詞がその機能を担う。従属節の形式ともみなせるが、ここで文の形式とみなし、文末形式を付与する。終助詞の付加は、「さ」以外にも「よ」が可能である。

(5) 伝聞伝達

- a. 全国でもまだ数件しかないって [8B:31] 〈I: って〉
- b. ガキたちの火の不始末が原因だろうってさ [5:32] 〈I: ってさ〉
- c. 今まで何度かそれっぽい施設を襲ってるんだけど、もぬけの殻なんだと [6A:252] 〈II: なんだと〉

〔警告〕は、聞き手に警告する発話文である。働きかけの側面もあるが、伝えることに主眼があると考え、大分類〔伝達・表明〕に含める。出現したのは「ぞ」だけであるが、「わよ」も使用可能である。

(6) 警告

- a. ぶん殴るぞ [3B:84] 〈I: ぞ〉
- b. お、お前それ以上言ったら『自治会の独断』B D最終巻回さねえぞ? [10A:9] 〈I: ぞ?〉

表 6 認識表明の文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度
認識表明	I	ね	ね (5), Dね (5), Xね (10), ですね (4), ますね (2)	26
		ねえ	Xねえ	1
		な	な (24)	24
		なあ	なあ (3)	3
		よ	よ (5), Dよ (2), ですよ	8
		わ	わ (14), ですわ (3)	17
		わね	わね (9), ですわね (2), ますわね	12
		わよ	わよ (7)	7
		って	ですって (2)	2
	II	よね	よね (6), よね?, Dよね (2), Xよね (2), ですよね (5), ますよね	17
		よな	よな (4), Dよな	5
		よなあ	よなあ	1
	III	だろ	だろ (10), だろう (4)	14
		だろうね	だろうね	1
		でしょ	でしょ (10), でしょう (3)	13
		でしょうね	でしょうね	1
		ましょう	ましょう	1
	IV	じゃないか	じゃないか (11), じゃないですか, じゃありませんか	13
		じゃないの	じゃないの	1
		じゃない	じゃない (5)	5
じゃん		じゃん (6)	6	
V	んだ	んだ (2), んです	3	
	んだな	んだな (2)	2	
	んだね	んですね (2)	2	
	のですね	のですね	1	
	のね	のね (2)	2	
VI	んだよね	んですよね	1	
VII	んだろ	んだろ, んだろう (2)	3	
	んでしょうね	んでしょうね (2)	2	
VIII	んじゃないか	んじゃないか	1	
	んじゃないかな	んじゃないかな (2)	2	
	んじゃないの	んじゃないの?	1	
	んじゃない?	んじゃない, んじゃない?	2	
	んじゃ	んじゃ	1	
	のではないかしら	のではないかしら	1	
IX	んだってば	んだってば	1	
X	だろが	だろが	1	
XI	でしょうに	でしょうに	1	
XII	つつうの	つつうの	1	
XIII	んだつつうの	んだつつうの (2)	2	

〔認識表明〕は、話し手の考え・判断・評価・感情などを聞き手に伝える発話文である。I類は「ね」を中心とした終助詞、II類は「よね・よな」、III類は「だろ」、IV類は「じゃないか」、V類は「んだ」、VI類は「んだよね」、VII類は「んだろ」、VIII類は「んじゃないか」の形式をとる。これらの類のうち、I類とV類は断定的、それ以外の類は確認や同意を前提とするニュアンスが若干含まれる。いずれの類も類内の置換可能性は高い。II類からIV類、および、

(9) 聞き手に確認することに主眼がある場合は、〔確認要求〕に分類する。

VI 類から VIII 類は類間でも置換可能性が高い。

IX 類以下は少し特殊である。IX 類の「んだってば」は言い聞かせや言い訳のニュアンスが含まれる。X 類と「だろうが」と XI 類の「でしょうに」は、非難や言い聞かせのニュアンスを持つ。XII 類と XIII 類に含まれる「つつうの」は「というの」の音変化で、作品 6 ではキャラクタ 6B だけが使用する⁽¹⁰⁾。X 類と XI 類は置換可能性が高いが、それ以外は類間の置換可能性はほぼない。

(7) 認識表明

- a. ネットってすごいね [2D:51] 〈I: ね〉
- b. 出てきたのがアタシでよかったな [3B:83] 〈I: な〉
- c. それくらいこなしてくれないと困るわ [3D:133] 〈I: わ〉
- d. 本場フランスの味ですよ [9B:29] 〈II: ですよ〉
- e. それは関係ねえだろ [3B:110] 〈III: だろ〉
- f. 君、友達いないでしょ [2B:47] 〈III: でしょ〉
- g. 戦わなくて済むのは良い事じゃないか [6:17] 〈IV: じゃないか〉
- h. 中村君って、意外と話が分かるじゃん [1B:31] 〈IV: じゃん〉
- i. わたし、常々思うんだけど、心の底からボランティアをやりたい人なんかいないと思うんだ [1B:34] 〈V: んだ〉
- j. でも、あの店、ビオワインも置いてて、なかなかセンスいい品揃えなんですよ [9:23] 〈VI: んですよ〉
- k. 少しは仕事をしていますってところを見せないと、本国で税金納めている平和な人達は給料に使ってほしくはないんだろ [6A:16] 〈VII: んだろ〉
- l. そんなの格好悪くて言えないんじゃないかな [1B:33] 〈VIII: んじゃないかな〉
- m. ……そういう風に気を抜いてるトコにドカンとやられるのが一番怖いんだってば [6A:253] 〈IX: んだってば〉
- n. だいたい、そんな影響のでかい話なら、わざわざこんな砂漠の果ての弱小企業に持ってこないでも、ジェット推進研究所なら深宇宙ネットワークでも北米防空司令部の小惑星監視システムでも使い放題だろうが！ [4A:87] 〈X: だろうが〉
- o. 最初から私と組んでいたらこうはならなかったでしょうに [3C:110] 〈XI: でしょうに〉
- p. ふざけんなつつーの [6B:19] 〈XII: つつうの〉
- q. 滑走路なんて整備するだけ無駄なんだつつの [6B:17] 〈XIII: んだつつうの〉

⁽¹⁰⁾ 「つつうの」は特定のステレオタイプを連想させるほどの表現ではなく、「キャラ語尾」とは言い難い。

表7 理由表明、意志表明の文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度
理由表明	I	もの	もの (4), もん	5
		ものね	ものね (2)	2
	II	んだもの	んだもの (2), んだもん (2), んですもの	5
意志表明	I	ウ	ウ (4)	4
		ましょう	ましょう (3)	3
	II	ウじゃないの	ウじゃないの	1
	III	ウかな?	ウかな? (2)	2
		ウかなあ	ウかなあ	1
	IV	ね	ね (2)	2
		わ	わ (5)	5
わよ		わよ (2)	2	

【理由表明】は、話し手が理由と認識していることを聞き手に表明する発話文である。「もの・もん」がその機能を担う。認識表明の一種ともみなせるが、独立した機能ラベルを付与する。多くの場合、接続助詞「から」や「し」と置換可能である。

(8) 理由表明

- a. 大丈夫、あたしたちが相手にするのは実在しない衛星だもの [4B:85] <I: もの>
- b. だってオーラが違うんだもん [10B:18] <II: んだもん>

【意志表明】は、話し手が自分の意志を聞き手に表明する発話文である。I類は意志形、II類は意志形+「じゃないの」、III類は意志形+疑問を表す終助詞、IV類は終助詞の形式である。I類とII類は提案的ニュアンス⁽¹¹⁾を持ち、類間でも置換可能と考えられる。III類は迷いがあること、IV類が迷いがないことを表す。これらは、他の類とは置換できない。

(9) 意志表明

- a. じゃあさ、やっぱり、残業代の出ない残業のことは『ボランティア残業』と呼ぶことを政令で定めよう [1B:34] <I: ウ>
- b. オッキー、あたしが手塚に嫌われてる理由はよく分かったとしようじゃないの [8A:158] <II: ウじゃないの>
- c. どうしよう……サボっちゃおうかな? [3A:68] <III: ウかな?>
- d. クソ教官に極められた腕が痛いからもう寝るわ [8A:31] <IV: わ>

5.3 働きかけの文末形式

大分類〔働きかけ〕は、〔提案・勧誘〕、〔禁止〕、〔命令〕、〔依頼〕の4種類に細分する。これらの文末形式を表8に示す。

【提案・勧誘】は、話し手が聞き手に対して行動を提案したり共に実行することを誘い促す発話文である。I類は意志形、II類は意志形+終助詞、III類は意志形+疑問を表す終助詞の形式である。類内・類間とも、原則として置換可能である。

⁽¹¹⁾ 提案的ニュアンスが全面に出ている場合は、〔提案・勧誘〕に分類する。

表 8 提案・勧誘、禁止、命令、依頼の文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度
提案・勧誘	I	ウ	ウ	1
		ましょう	ましょう (2)	2
	II	ウぜ	ウぜ (2)	2
		ウな	ウな	1
III	ウか	ウか (5), ウか?	6	
禁止	I	な	な (7)	7
		なよ	なよ (8)	8
	II	ナイの	ナイの (2)	2
	III	んじゃないよ	んじゃないよ	1
んじゃないわよ		んじゃないわよ	1	
命令	I	命令形	命令形 (10)	10
		命令形よ	命令形よ	1
	II	なさい	なさい (7)	7
		なさいよ	なさいよ	1
		な	な	1
		なって	なって	1
	III	テ	テ	1
IV	テくれ	テくれ (5)	5	
	テくれよ	テくれよ	1	
V	んだ	んだ	1	
依頼	I	テ	テ (3)	3
		テね	テね	1
		テよ	テよ (5)	5
		テって	テって	1
	II	テくれ	テくれ (3)	3
		テくれよ	テくれよ (2)	2
		てください	てください (9)	9
		てくださいね	てくださいね	1
	III	テくれないか	テくれないか	1
		テくれない?	テくれない?	1
		テくれる?	テくれる?	1
		テくだらない?	テくだらない?	1

(10) 提案・勧誘

- a. 北上しましょう [3E:145] <I: ましょう>
- b. 帰ろうぜ [3B:85] <II: ウぜ>
- c. ま、行こっか [3B:94] <III: ウか>

【禁止】は、聞き手に「あることをするな」と働きかける発話文である。I類は「な」、II類は「ナイの」、III類は「んじゃない」の形式である。これらは、いずれも相互に置換可能と考えられる。

(11) 禁止

- a. 決まってからうだうだ言うな [3B:96] <I: な>
- b. 天気ばっか気にして足引っ張るなよ [3B:95] <I: なよ>
- c. だからそうやって扉を壊さないの [10D:16] <II: ナイの>

- d. ちょっとお……勝手に二人の世界に入ってるんじゃないよ [10A:15] 〈III: んじゃないよ〉

〔命令〕は、話し手が聞き手に命令する発話文である。I類は命令形、II類は「なさい」、III類は「テ」、IV類は「テくれ」、V類は「んだ」の形式である。III類とIV類は命令の強さの度合いが低く、〔依頼〕と連続する。類間でも置換可能と考えられる。

(12) 命令

- a. 次からはアタシも呼べ [3B:87] 〈I: 命令形〉
b. なら、ケータイを見なさい [2B:46] 〈II: なさい〉
c. もう話が進まないから黙って [2B:55] 〈III: テ〉
d. 暇じゃないんだ、お遊びなら外でやってくれ [4A:83] 〈IV: テくれ〉
e. さあ語るんだ！ [10A:166] 〈V: んだ〉

〔依頼〕は、話し手が聞き手になんらかの依頼をする発話文である。I類は「テ」、II類は「テくれ」、III類は「テくれ」の疑問形式である。これらの類の違いは、主にフォーマルさ・丁寧さであり、相互に置換可能である。

(13) 依頼

- a. じゃあ、この線で庶務省案の資料を作っておいて [1B:36] 〈I: テ〉
b. ぼくは出張の下調べをしたいので、そういったことは地学者か天文学者に聞いてきてください [1A:12] 〈II: テください〉
c. そうよ、先に不参加を表明したのはこっちなのに、人の尻馬に乗って叩くのはやめてくれない？ [10C:15] 〈III: テくれない？〉

5.4 質問・確認の文末形式

大分類〔質問・確認〕を、〔確認要求〕、〔記憶確認〕、〔問い返し〕、〔質問〕、〔自問〕の5種類に細分する。まず、自分自身に問いかける場合は〔自問〕に分類する。次に、発話文の主眼が聞き手に確認を求めることにある場合、「っけ」が含まれれば〔記憶確認〕に、それ以外は〔確認要求〕に分類する。最後に、直前の質問に問い返している場合は〔問い返し〕に、残ったものを〔質問〕に分類する。これらの文末形式を表9と表10に示す。

〔確認要求〕は、発話者が聞き手に確認を求める発話文である。真偽疑問文の場合は、原則として、発話者は肯定の返事を期待している。I類は「ね?」、II類は「だろ?」、III類は「じゃない?」、IV類は「んだね?」、V類は「んだろ?」、VI類は「んじゃないのか?」の形式である。類間でもおおむね置換可能である。

(14) 確認要求

- a. だいたいさあ、中村君が送ってくれた資料を見ちゃうと、来月からわたしの俸給が減るってことだよな? [1B:31] 〈I: Dよね?〉
b. 下調べって、カニ祭りのことでしょ? [1B:12] 〈II: でしょ?〉

表 9 確認要求、記憶確認、問い返しの文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度
確認要求	I	ね?	Xね?	1
		よね?	よね?, Dよね?	2
		わよね	わよね (2)	2
	II	だろ?	だろ? (5), だろ (2), だろう?	8
		でしょ?	でしょ? (7), でしょう?	8
		でしょうね	でしょうね	1
	III	じゃない?	じゃない?	1
		じゃないのか	じゃないのか (2)	2
	IV	んだね?	んですね?	1
	V	んだろ?	んだろ?	1
		んでしょ?	んでしょ? (2)	2
		のでしょう?	のでしょう?	1
	VI	んじゃないのか?	んじゃないのか? (2)	2
んじゃないの?		んじゃないの? (3)	3	
んじゃない?		んじゃない?	1	
のではなくて?		のではなくて?	1	
記憶確認	I	っけ?	っけ? (4)	4
	II	んだっけ?	んだっけ? (3)	3
		んじゃないかっけ? んだっけか?	んじゃないかっけ? (2) んだっけか?	2 1
問い返し	I	?	? (2)	2
	II	だと?	だと?, だと	2
	III	って?	って?	1

- c. あれ、街の魔法具店で売ってたやつじゃない? [3A:108] <III: じゃない?>
- d. あれ、今日は空いてるんですね? [4B:80] <IV: んですね?>
- e. ここって標高高いんでしょ? [3A:95] <V: んでしょ?>
- f. 中村君さあ、カニカマって、日本が作ったんじゃないかっけ? [1B:16] <VI: んじゃないの?>

【記憶確認】は、話し手が自分の記憶を確認する形で問いかける発話文である。「っけ?」がその機能を担う。

(15) 記憶確認

- a. どこまでだっけ? [10B:162] <I: っけ?>
- b. ヘイヴィアは『貴族』なんだっけ? [6:18] <II: んだっけ?>

【問い返し】は、直前の質問や発話に対して話し手が問い返す発話文である。I類は単独の疑問符、II類は「だと?」、III類は「って?」の形式である。類間でも置換可能と考えられる。

(16) 問い返し

- a. 向いていない? [7B:29] <I: ?>
- b. グレイハウンドのバスだと [4A:81] <II: だと>

表 10 質問、自問の文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度
質問	I	?	? (31), D?, X? (14)	46
	II	か?	か? (7), か, ですか? (10), ですか (2), ますか? (9), ますか (3)	32
		かい?	かい? (2), かい (2)	4
		だい?	だい?, だい	2
		かな?	かな?, かな	2
		かね?	ますかね? (2)	2
		かしら?	かしら? (3), かしら (2)	5
		かしらね	かしらね	1
	III	でしょうか	でしょうか	1
	IV	んですか?	んですか? (5), んすか?	6
		んだい?	んだい	1
		の?	の? (32)	32
		のか?	のか? (7), のか (3), のですか?	11
		のかい?	のかい	1
		のかな?	のかな?	1
	V	丁寧の?	ますの?	1
	VI	んだ	んだ (6), んです	7
		んだよ	んだよ (2)	2
		の	の (2)	2
		のよ	のよ (4), のよ?	5
	自問	I	?	?
II		かな?	かな?, かな (2)	3
		かなあ	かなあ (2)	2
		かしら	かしら (3)	3
III		だろう	だろう (2)	2
IV		のかしら	のかしら (3)	3
		のかなあ	のかなあ	1

- c. どう思うって? [5A:30] <III: って?> (「どう思う?」という直前の問いかけに対して)

【質問】は、聞き手に問いかける発話文である。I類は単独の疑問符、II類は疑問を表す終助詞、III類は「でしょうか」、V類は「んだ・のだ」の疑問形式、V類は「丁寧の?」、VI類は「んだ・のだ」の形式である。

II類の「だい」とVI類は、補充疑問文の場合に可能な形式である。補充疑問文の場合は、すべての類間で、真偽疑問文の場合は、I類からV類での類間で、原則として相互に置換可能と考えられる。

(17) 質問

- 今度はどんなろくでもないもの拾ってきた? [4A:83] <I: ?>
- てことは、中村君は、左遷だと思っていないわけ? [1B:9] <I: X?>
- あの……予約をしたいのですが、ひとりでも大丈夫ですか? [9A:21] <II: ですか?>
- いい歳をして悪戯かい? [5B:25] <II: かい?>
- 大学のほうはどうだい [5B:26] <II: だい>

表 11 気づき、詠嘆の文末形式

機能	類	代表形	文末形式	頻度
気づき	I	か	か (3), ですか (2)	5
		かあ	かあ	1
	II	じゃない	じゃない	1
		じゃないか	じゃないか	1
	III	の?	の? (2)	2
		のか	のか (5)	5
	IV	んだ	んだ (9)	9
		んだね	んですね	1
		んだっけ	んだっけ	1
		の	の	1
		のね	のね (2)	2
V	かよ	かよ	1	
VI	のかよ	のかよ (3)	3	
詠嘆	I	なあ	なあ (2)	2
		ねえ	Dねえ	1
	II	か	か	1
III	ことか	ことか	1	

- f. ふたりは『も』かしら? [2B:47] <II: かしら?>
- g. 私の仕事はミスが多いでしょうか [7B:93] <III: でしょうか>
- h. あたしのこと、心配してくれてるの? [4B:82] <IV: の?>
- i. 携帯端末なくしたのか? [6B:251] <IV: のか?>
- j. お喋りしている暇がありますの? [3C:109] <V: ますの?>
- k. 湯川、どこにいるんだ [5B:24] <V: んだ>
- l. ていうか、あんたは何て返事したのよ [8B:158] <VI: のよ>

〔自問〕は、発話者の主たる問いかけ先が自分自身である質問文である。必ずしも聞き手を必要しない非対話的な発話である。I 類は単独の疑問符、II 類は疑問を表す終助詞、III 類は「だろう」、IV 類は「のかなあ」の形式である。類間の置換可能性は低い。

(18) 自問

- a. 手品でもないのに燃える? [5A:35] <I: ?>
- b. よいしょっと……ん～、こんな感じでいいかなあ [10B:20] <II: かなあ>
- c. あら、お客さんかしら [4:79] <II: かしら>
- d. こんなに静かな午後、何年ぶりだろう……[4A:77] <III: だろう>
- e. なぜ負けたのかしら [3D:143] <IV: のかしら>

5.5 独話的の文末形式

大分類〔独話的〕を、〔気づき〕と〔詠嘆〕に細分する。いずれも聞き手がいなくても成立する発話文である。これらの文末形式を表 11 に示す。

〔気づき〕は、話し手が「何らかのきっかけでそう思うに至った」ことを口にする発話文である。発話文が独話的で、かつ、新たなる認識・気づき・納得などの意味を持つ場合に、〔気づき〕に分類する。I類は疑問の形式、II類は「じゃないか」、III類は「のか」、IV類は「んだ」、V類は「かよ」、VI類は「のかよ」の形式である。「かよ」を含む形式は、驚き・非難のニュアンスが強く、他の形式との置換可能性が低いが、それ以外の形式は、比較的置換可能と考えられる。

(19) 気づき

- a. 先生……道終・常イチくらいですか……[7B:93] 〈I: ですか〉
- b. 嘘だろ、『情報同盟』軍の連中じゃねえか!! [6B:254] 〈II: じゃないか〉
- c. 僕のプライベートレイヤに勝手にアクセスしたのか……[7A:27] 〈III: のか〉
- d. うへー、日本全体だと去年だけで百億円以上もただ働きをしているんだ [1B:33] 〈IV: んだ〉
- e. 本気かよ……[4A:87] 〈V: かよ〉
- f. 今さらなのに早いのかよ [10A:9] 〈VI: のかよ〉

〔詠嘆〕は、感情の高まりを詠嘆的に表す発話文であり、「なあ」がその代表格の形式である。I類は「なあ・ねえ」、II類は「か」、III類は「ことか」の形式である。類間の置換は不可能である。

(20) 詠嘆

- a. その台詞、クラスメイトに聞かせてあげたいなあ [2A:52] 〈I: なあ〉
- b. 何を言うか! [10A:8] 〈I: か〉
- c. この業界で、一体、何人のデイドリームビルバーが虹の根元を目指して消えていったことか……[4A:85] 〈III: ことか〉

6. 文末表現はどのように使い分けられているか

本節では、それぞれのキャラクターがどんな文末形式を使用しているのか観察する。具体的には、24名のキャラクターを、(1) 大部分の発話文が丁寧体である6名(男性3名、女性3名)、(2) 女性11名、(3) 男性7名、の3グループに分け、頻度が高い3つの機能ラベル〔伝達〕、〔認識表明〕、〔質問〕の文末表現の使用実態を観察する。

なお、以下では、主として女性が使うとみなされている形式をF形式、主として男性が使うとみなされている形式をM形式と略記する。この節で示す表では、文末形式に次のような色分けをした。

黄色 丁寧体のF形式

ピンク 普通体のF形式

青 M形式(普通体)

無色 それ以外の形式

表 12 文末形式の使用実態 (1) 主に丁寧体を使用

機能ラベル	類	丁寧	文末形式	3C	7B	9A	2A	1A	3E
伝達	I	丁寧	ですよ,ますよ		1		3	1	
		丁寧	ますわ,ますわよ	F	3				
		丁寧	ますの	F	1				
	II	丁寧	んです			7	2	6	
		丁寧	んですよ			2			
		丁寧	のですよ		1				
		の	F		1				
認識表明	I	丁寧	ですね,ますね		1		1	1	1
		丁寧	ですって				2		
			わ,わね,わよ	F		1			
		丁寧	ですわ,ですわね,ますわね	F	6				
	II	丁寧	ですよね,ますよね			3		1	
	III	丁寧	でしょう		2	1			
		丁寧	ましょう		1				
			でしょ	F			1		
	IV	丁寧	じゃないですか				1		
		丁寧	じゃありませんか			1			
	V	丁寧	んですね				2		
		丁寧	のですね		1				
			のね	F		1			
	VII	丁寧	んでしょうね					1	
VIII	丁寧	のではないかしら	F	1					
XI	丁寧	でしょうに	F	1					
質問	II	丁寧	ですか?,ですか,ますか?,ますか,ませんか?	1	6	2	1	6	2
		丁寧	ますかね?					1	
	III	丁寧	でしょうか			1			
	IV	丁寧	んですか?,んですか				3	1	
		丁寧	のですか?		1				
	V	丁寧	ますの?	F	1				
	VI	丁寧	んです		1				

6.1 丁寧体を多用するキャラクタ

大部分の発話文が丁寧体であるキャラクタは、女性 3C, 7B, 9A と男性 2A, 1A, 3E の 6 名である。これらのキャラクタの使用実態を表 12 に示す。

黄色で色付けした F 形式は上品な口調であり、その多用は、キャラクタに育ちの良さ (上流階級の女性の印象) を感じさせる。3 名の女性のうち、キャラクタ 3C のみに使用が観察される。

ピンクで色付けした F 形式は普通体である。ここで示したキャラクタは丁寧体を多用するので、これらの形式の使用数は少ない。男性キャラクタ 2A は「でしょ」を使用しているが、これは「だろ」の丁寧体として使用と思われる。

色付けしなかった丁寧体の文末形式は、女性も男性も使用すると考えられる。これらの丁寧体には、キャラクタの特徴を反映させる余地があまりないように思われる⁽¹²⁾。ただし、「んです」の使用の有無には、反映させる余地が若干あるかもしれない⁽¹³⁾。

(12) 一貫して丁寧体を使用することは、キャラクタの特徴となる。

(13) 「んです」を使用キャラクタは、使用しないキャラクタと比較して、素朴な (飾り気のない) 印象を与えるような気がする。

表 13 文末形式の使用実態 (2) 女性キャラクタ

機能ラベル	類	丁寧	文末形式	3D	10D	4B	2B	10C	8B	8A	3A	1B	10B	3B	
伝達	I		よ,よお								1	6	4	2	
			Xよ,Xよ?	F		2	4		2	2	5				
			わ,わよ	F	1	3	1	2		3	1				
			Dよ	M									3		2
			ぜ	M											1
		ぞ,ぞ?	M											3	
	II		の	F		2		3	2	2		1	4		
			のよ,のよね	F			1	1	5	6	3		2		
			んだ	M											1
			んだぜ	M											1
		んだよ,んだよね	M								1	7		4	
認識表明	I		ね				1						2		
			よ						1				2		
			Xね,Xねえ	F	3	1	1	3		2					
			わ,わね,わよ	F	15	4	1			4	3				
			Dね	M									1	2	
			な,なあ	M									2		7
			Dよ	M								1		1	
	II		よね,よね?							1		3	3		
			Xよね	F		1				1					
			Dよね	M									1	1	
	III		だろうね											1	
			でしょ	F	1			1	1			4	2		
			だる	M							1				4
	IV		じゃない		1	1			1				1		
			じゃん									4	2		
			じゃないの	F			1								
			じゃないか	M											3
V		のね	F		1										
		んだ	M									1			
VII	丁寧	んでしようね						1							
VIII		んじゃないかな										1			
		んじゃない,んじゃない?,んじゃ				1			1				1		
質問	I		?	2	1	2	4		3	1	1	7		1	
			X?					1	1	5	1	1	4		
	II		か?,か								1			1	
			かな?,かな										1		
			かしら?,かしら,かしらね	F	2	2	1	1							
	IV		のか?,のか									1			
			のかな?						1						
			の?	F	10	1	3	2	1		4	6	4		
	VI		の	F						1					
			のよ,のよ?	F					3	1	1				
			んだ,んだよ	M						1					2

6.2 女性キャラクタ

主に普通体で発話する女性キャラクタ 11 名の使用実態を表 13 に示す⁽¹⁴⁾。11 名のキャラクタは、大きく、F 形式を使用し M 形式をほとんど使わない 7 名 (3D, 10D, 4B, 2B, 10C, 8B,

⁽¹⁴⁾ 「の」は非疑問形の「の」を女性文末形式とするのが通説であるが、今回は、使用実態から判断して、「質問」の「の?・の」も女性文末形式に分類した。

8A) と、F 形式の使用が限定的で M 形式の使用が認められる 4 名 (3A, 1B, 10B, 3B) に分けられる⁽¹⁵⁾。

前者の 7 名には、F 形式の使用が多数観察される。特に、〔伝達〕の「わ・Xよ・Xね」の使用が一貫して観察される⁽¹⁶⁾。

もう少し詳細に観察すると、細かな差異が存在する。

- キャラクタ 3D に〔伝達〕の「の・のよ」の使用が見られない。これは、3D のセリフのほとんどが部下 3E との会話で、伝達内容が事実ではなく 3D の認識であることが原因と考えられる。実際、〔伝達〕ラベルを付与した 3D の発話文は 1 文のみである。
- キャラクタ 10C に〔認識表明〕の「Xね・わ」の使用が見られない⁽¹⁷⁾。
- 〔質問〕の「かしら」を使うキャラクタと使わないキャラクタが存在する。
- 〔質問〕の「のよ」の使用もセリフの書き分けに使われている可能性がある。

このような差異はあるが、今回の調査範囲において全体的には類似している。キャラクタ毎の特徴をより詳細に把握するためには、より多くの実例を観察する必要がある。

一方、後者の 4 名は、次のような明確な差異が存在する。

キャラクタ 1B,3A 「Dね・Dよ・んだ」などの M 形式も使うが、F 形式の「の・でしょ・の？」も使う。スタイル的には、女性寄り。

キャラクタ 10B M 形式の「Dね・Dよ」を使う。F 形式は一切使わない。スタイル的には、中性的 (現代的)⁽¹⁸⁾。

キャラクタ 3B 「ぜ・ぞ・Dね・Dよ・だろ・んだ」などの M 形式を多用し、F 形式は一切使わない。スタイル的には、ほぼ男性的。

キャラクタ 3B が使う文末形式は、明らかに、キャラクタ造型を意図していると思われる。

6.3 男性キャラクタ

主に普通体で発話する男性 7 名に、M 形式を使用する女性キャラクタ 4 名 (再掲) を加えた 11 名の使用実態を表 14 に示す。この表から、7 名の男性キャラクタは、1 例を除いて F 形式を使用していないことがわかる。

男性キャラクタ内では、次の差異が観察される。

- 〔伝達〕の「ぜ」を使うか否か
- 〔伝達〕の「ぞ」を使うか否か
- 〔伝達〕の「さ・のさ」を使うか否か
- 〔認識表明〕の「だろ・だろう」のどちらを使うか
- 〔質問〕の「かい・だい」を使うか否か

これらはキャラクタ造形に寄与していると考えられる。

先に指摘したように、女性キャラクタ 3B は、文末形式の使用実態からは男性的なスタイルである。実際、使用実態は、男性キャラクタ 6B に近い。ちなみに、キャラクタ 3B と 6B は、

⁽¹⁵⁾ キャラクタ 8B の「んだ」は、男性の登場人物のセリフを代弁する際に使用されている。

⁽¹⁶⁾ 調査範囲ではキャラクタ 10C に「わ」の使用は観察されなかったが、他の箇所では「わ」の使用が観察される。

⁽¹⁷⁾ このキャラクタは、〔認識表明〕に接続助詞「し」で終わる言いさし文を使う傾向が観察される。

⁽¹⁸⁾ 現実の会話では、女性の F 形式の使用の減少が観察されている (尾崎 (1997), 小川 (2006), 水本 (2006))

表 14 文末形式の使用実態 (3) 男性キャラクタと一部の女性キャラクタ

機能ラベル	類	丁寧	文末形式	7A	5A	5B	4A	10A	6A	6B	3B	10B	1B	3A	
伝達	I		よ,よお	4	1				3	2	2	4	6	1	
			Dよ	M	2				2	1	2		3		
			ぜ	M		1					2	1			
			ぞ,ぞ?	M				1	3	1	3	3			
			さ	M	1	5	1				1				
			の	F										4	1
	II		のよ,のよね	F										2	
			んだ	M		1	6	2		2	2	1			
			んだぜ	M								1			
			んだぞ	M				1	1						
			んだよ,んだよね	M	1				1		2	4		7	1
			のさ	M							1				
	認識表明	I		ね		1	1						2		
			よ						1	1		2			
丁寧			ですよ					1							
		Dね	M	1	1							2	1		
		な,なあ	M		3	3		4	2	5	7		2		
		Dよ	M									1		1	
II			よね,よね?										3	3	
			よな,よなあ						4						
		丁寧	ですよ,ますよね						1						
		Dよね	M									1	1		
		Dよな	M							1					
III			だろうね										1		
			でしょ	F										2	4
			だろ	M					1		4	4			
		だろ	M	1	3										
IV			じゃない												1
			じゃん												2
			じゃないか	M	1	3				1	2	3			
V			んだ	M							1			1	
			んだな	M							1				
VII			んだろ	M							1				
		んだろう	M							1					
VIII		んじゃないか								1					
		んじゃないかな								1				1	
		んじゃないの?								1					
		んじゃない,んじゃない?,んじゃ										1			
IX		んだってば							1						
X		だろうが					1								
XII		つつの								1					
XIII		んだっつの								2					
質問	I		?		1	2	2	1	2		1		7	1	
			D?			1									
			X?											4	1
	II		か?,か				1	2	1	1		1			
			かな?,かな					1					1		
			かい?,かい,だい?,だい	M		1	5								
	IV		のか?,のか			1		2			3				1
			のかい			1									
			の?	F										4	6
		んすか?	M							1					
		んだい	M		1										
	VI		の	F	1										
			んだ,んだよ	M			3	2				2			

いずれも名家(貴族)の子女で、家に反発しているという共通点がある。本研究では音変化は扱わなかったが、「ない」を「ねえ」と発音する点でも類似している。

7. 口調ベクトルとの対応

最後に、先の調査結果と口調ベクトルとの対応を調べる。

1節で述べたように、口調ベクトルとは、セリフの話し方スタイルを埋め込んだ64次元のベクトルである。ここでは、10文字以上100文字以下のセリフ⁽¹⁹⁾を口調ベクトル化し、それをt-SNE(Maaten and Hinton (2008))を用いて2次元に次元削減した結果を図1に示す。

この図は、12個の散布図から構成されている。左上の散布図は、それぞれのキャラクターの2次元ベクトルの重心(平均値)をプロットしたものである。それ以外の散布図は、それぞれの作品(ただし、作品3はそれぞれの章)毎に、各セリフを点で、各キャラクターの重心を星でプロットしたものである。

各キャラクターの重心をプロットした左上の散布図において、次の3つのクラスタが観察される。ここでは、横軸を x 、縦軸を y と表す。

クラスタ P ($y < -5$)

丁寧体を多用するキャラクター (9A, 3C, 7B, 2A, 1A, 3E)

クラスタ F ($y > -5$) and ($x < 0$)

主に普通体を使用する女性キャラクター (3D, 8A, 10C, 8B, 4B, 10D, 2B, 3A, 10B, 1B)

クラスタ M ($y > -5$) and ($x > 0$)

主に普通体を使用する男性キャラクター (7A, 5A, 6A, 4A, 10B, 5B, 6B) と男性的な口調の女性キャラクター (3B)

これらのクラスタは、前節の分析と一致する。このことから、次のような解釈が可能である。

x 軸 女性的(-) 男性的(+)

y 軸 丁寧体(-) 普通体(+)

7.1 クラスタ P

クラスタ P は、丁寧体を多用する6名のキャラクターから構成されている。これらのキャラクターのセリフの多くは、 y が負の領域において、 $x = 0$ 付近に配置されている。これは、丁寧体に男女差があまり感じられないことを反映しているとみなせる。

ただし、キャラクター 3A に着目すると、 $x = -25$ 付近に3セリフが配置されている。これらのセリフは、「ですわね・ましたわね・テクダサらない?」を含むセリフで、これらが女性的であると判定されるのは妥当であろう。ただし、丁寧体の F 形式(表12で黄色で色付け)を含むセリフでも、 $x = 0$ 付近に配置されるものもあり、すべてが適切な位置に配置されているわけではない。

キャラクター 3E では、2つのセリフだけが離れた位置に配置されている。この2つのセリフは、上司である3Dへのセリフではなく、部下である別の登場人物に向けた普通体のセリフであり、離れた位置に配置されるのは妥当である。

⁽¹⁹⁾ 発話文の単位ではなく、セリフの単位であることに注意されたい。

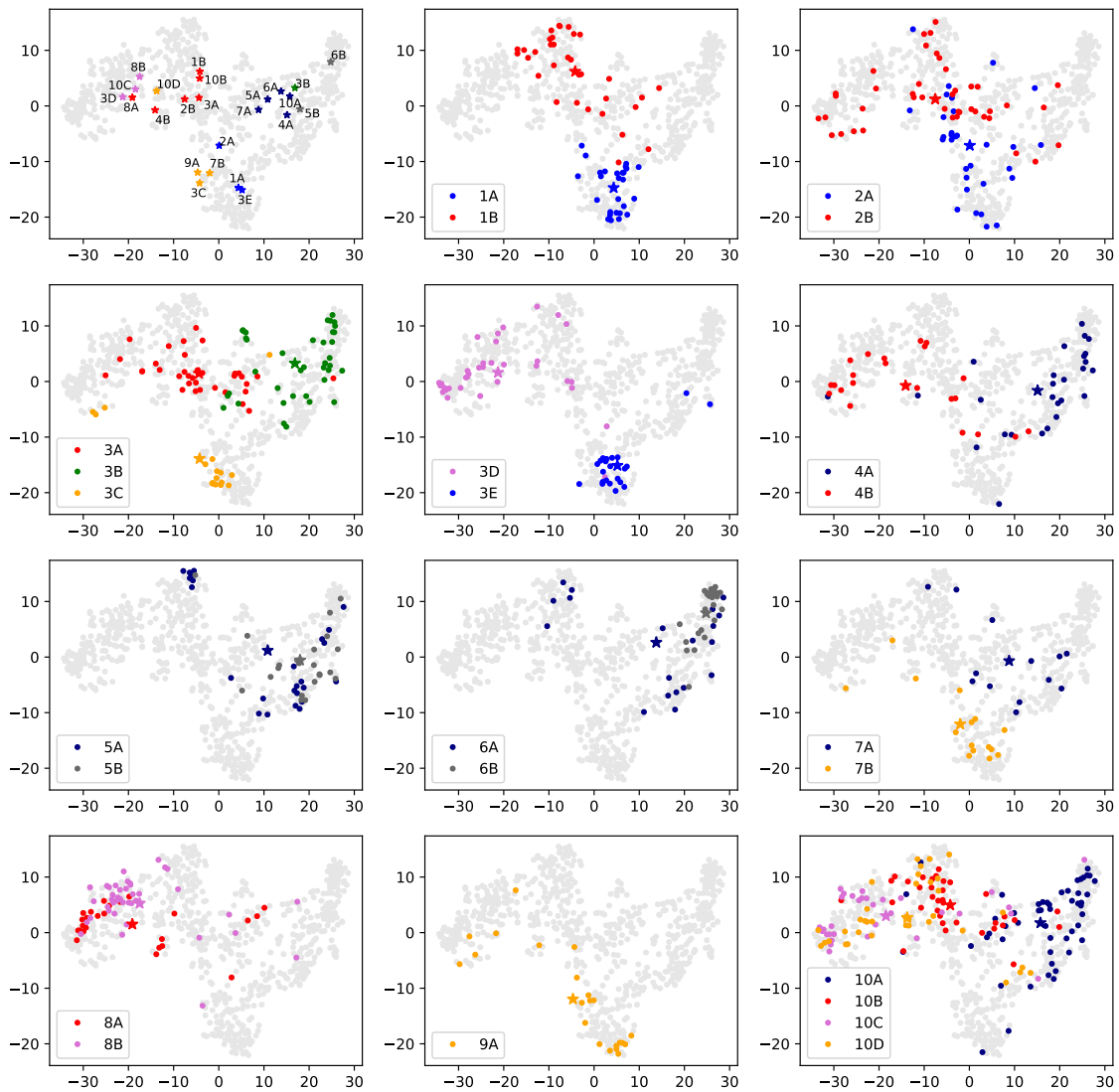


図1 口調ベクトルの可視化

6名のキャラクターの中では、2Aと9Aのセリフの点が比較的散らばっている。これは、他の4名のセリフのほとんどが丁寧体であるのに対し、次のような普通体のセリフが含まれているからである。なお、末尾の数字のペアは (x, y) 座標を表す。

(21) 「その台詞、クラスメイトに聞かせてあげたいなあ」 [2A:52](-12.5, 13.8)

(22) 「すごい……マッシュルームって、こんなにいい香りがするのね」 [9A:27](-17.4, 7.6)

これらのセリフの y 座標の値は正であり、丁寧体の領域 (y が負) から大きく外れている。

7.2 クラスタ F

クラスタ F は、主として普通体を使う女性キャラクターのうち、スタイル的には男性的なキャラクター 3B を除く、10 名のキャラクターから構成されている⁽²⁰⁾。

図 1 の左上の散布図を見ると、この 10 名のうち、M 形式も使うキャラクター 1B, 10B, 3A の 3 名は、一番右寄り (x の値が大きいところ) に配置されている。1B の散布図 (中央上) を見ると、 x が正の領域 (男性的) にも点が存在している。この 3 名のキャラクターの x が最大値をとるセリフを以下に示す。

- (23) 「そりゃ、働いてもいない社員に残業代を支給して利益を小さく見せていれば、株主に対する背信行為だからでしょ。その分、法人税も払わないし、配当金も少なくするからだよ」 [1A:29](14.4, 3.2)
- (24) 「それを含めてコンビニって表現したのに無粋だよ」 [10B:163](19.9, 1.0)
- (25) 「雨でも降ってきたらいいのにな」 [3A:95](25.4, 0.6)

これらのセリフのうち、(23) と (24) では、M 形式の「D よ・D な」の使用が見られる。セリフ (25) の x の値が大きいのは、末尾の「な」が原因と思われる。

M 形式を使わない 7 名のうち、キャラクター 3D, 8A, 8B, 10C のセリフの点は、比較的まとまったところに分布している。それらに比べて、残りの 2B, 4B, 10D のセリフの点は散らばっている。この 3 名のキャラクターの x が最大値をとるセリフを以下に示す。

- (26) 「少なくとも数パーセントの本気を感じた」 [2B:55](19.7, -7.1)
- (27) 「はるばる一〇〇マイルも彼方からバスと自転車乗り継いできたのに、ずいぶん冷たいんじゃない？」 [4B:83] (13.1, -9.0)
- (28) 「リーダーがメンバー全員と多角関係を形成して空中分解に一票」 [10D:264](13.5, -7.2)

これらのセリフのうち、(26) と (28) は、男性話者であっても違和感はないが、(27) は、筆者には女性的と感じられる。

7.3 クラスタ M

クラスタ M には、主として普通体を使う男性キャラクター 7 名に加え、スタイル的には男性的な女性キャラクター 3B が含まれる。図 1 の左上の散布図を見ると、キャラクター 6B だけが、少し離れた位置に配置されている。6B は、「ぜ・ぞ」を比較的よく使うキャラクターで、「ない」を「ねえ」と発音するようなくだけた音変化も多用する「言葉遣いが荒い」キャラクターである。

それぞれのキャラクターのセリフの散布図を見ると、キャラクター 6B のセリフは、比較的まとまって分布しているが、それ以外のキャラクターのセリフは、比較的散らばっている。以下に、 y の値が -10 より小さなセリフと、 x の値が -10 より小さなセリフの例を示す。

⁽²⁰⁾ キャラクター 10B は、F 形式を使用しないのにも関わらず、クラスタ F に含まれている。このことは、F 形式の使用とは異なる、何らかの女性的と思われる特徴が、口調ベクトルに埋め込まれていることを示唆する。

(29) $y < -10$

- a. 「お揃いって言わないでください！ あの、新築の三四メートルディッシュ、スケジュール空いてます？」 [4A:88](6.6, -22.0)
- b. 「そういう嫌味はいいですから。だからわざわざ広げなくていいですから」 [10A:11] (2.9, -21.5)

(30) $x < -10$

- a. 「あたしたち？ なぜ複数形？」 [4A:85](-31.3, -2.7)
- b. 「あ、あ……はぁぁぁ〜」 [10A:16] (-14.7, -3.5)
- c. 「他人の税金で食べられるんだから文句はナシなんじゃないの？ まあ確かに、これならその辺の鹿でも捕まえて、塩焼きにした方がまだマシかもしれないのは認めるけど」 [6A:19] (-10.4, 5.6)

(29) の 2 つのセリフは、いずれも丁寧体であるため、 y の値が負の大きい値となるのは妥当である。一方、(30a) の x の値が負の大きな値 (女性的) となるのは、「あたしたち」が原因であろう。このセリフは、直前の女性キャラクタのセリフに含まれる「あたしたち」を問い返したセリフである。(30c) の x の値が負の大きな値となるのは、「(んじゃない) の？」のせいだと思われる。男性キャラクタ 6A は、中性的なスタイルで話すキャラクタである。「んじゃないの？」は、現代では中性的なスタイルとみなしてよいと思われるが、「の？」に引っ張られて女性的と認識されているのかもしれない。残りの (30b) の原因はよくわからない。

特定のキャラクタに注目したとき、そのキャラクタがいつも同じスタイルで話すとは限らない。そのため、散布図でセリフの点が散らばるのは自然である。外れ値となっているセリフは、そのキャラクタの典型的なスタイルとは異なるスタイルのセリフとなっていることが多い。

7.4 キャラクタの弁別精度

1 節で述べたように、口調ベクトルを利用してセリフの話者を推定することができる。表 15 に、同一作品中の 2 名のキャラクタの弁別精度を示す。ここで示した精度は、弁別対象となる 2 名のキャラクタに対して、10 文字以上 100 文字以下のセリフのみを選び、セリフ数の少ない方にセリフ数を合わせて、2 クラス分類を 2 分割交差検証で実施した結果である。2 クラス分類の 2 分割交差検証なので、それぞれの話者の話者ベクトル (代表口調ベクトル) の作成に使用するセリフ数は、この表の「セリフ数」の 1/4 (6–18 セリフ) である。

2 名のキャラクタの性別が異なる場合 (F–M) は、1 ペア (2B–2A) を除いて、80% 以上の弁別精度が得られている。2B–2A の精度が低いのは、先に示した散布図において 2A のセリフの点が散らばっている (色々なスタイルで話す) ことから予想される結果である。

女性同士のペア (F–F) は、特異なスタイルを有する 3B と 3C がペアの一方に含まれている場合の精度は高い。それ以外のペアの精度は、1 ペア (10B–10C) を除き、80% に達していない。6 節で述べたように、10B と 10D は明らかに話し方のスタイルが異なる。8A と 8B、および、10C と 10D も、筆者の印象では、スタイルに差があるように感じられる。

男性同士のペア (M–M) の弁別精度は、どちらも 80% に達していない。5A–5B の両者は、

表 15 2名のキャラクターの弁別精度

ペア	セリフ数	正解数	精度 (%)	
F-M	3D-3E	44	43	98
	1B-1A	52	49	94
	10D-10A	72	64	89
	10C-10A	64	55	86
	4B-4A	44	37	84
	7B-7A	24	20	83
	10B-10A	68	55	81
	2B-2A	60	42	70
F-F	3A-3C	32	32	100
	3B-3C	32	32	100
	3A-3B	68	61	90
	10B-10C	64	54	84
	10B-10D	68	51	75
	8A-8B	48	35	73
	10C-10D	64	41	64
	M-M	6A-6B	36	26
5A-5B		44	28	64

筆者の印象としてはそれほどスタイルの差はなく、この結果は筆者の直感と整合する。しかし、6A-6Bの両者は、筆者の印象では明らかにスタイルの差が存在する。

以上の結果より、口調ベクトルは、同一性別の話者のスタイルの差を十分には捉えていないと思われる。

7.5 まとめ

以上の結果をまとめると、次のようになる。

- 口調ベクトルは、セリフの話し方のスタイルを反映しているとみなしてよいだろう。特に、男性的なスタイルと女性的なスタイルの違い、および、丁寧体と普通体の違いは、十分に埋め込まれている。
- 同一性別の細かなスタイルの違いに関しては、口調ベクトルはその違いを十分に捉えていない可能性が高い。この点については、さらなる調査が必要である。

ここで実施したキャラクターの弁別精度の実験において、話者ベクトルを作成するために使用したセリフ数は6から18である。そのような少ないセリフ数で、細かなスタイルの違いまで捉えてほしいと望むのは、ないものねだりかもしれない。その一方で、弁別に失敗しているセリフを観察すると、筆者の直感に反しているものも見受けられる。口調ベクトルには、まだ、改善の余地があると思われる。

8. 関連研究

本研究は、広くは話し方のスタイル (話体, speech style) の研究として位置付けられる。ただし、現実の会話を対象としているのではなく、小説という創作物内の会話を対象としている。

現実の会話の話し方のスタイルに関する研究として、男女差を扱った一連の研究がある。鈴木 (2007) は、それまでの先行研究 (尾崎 (1997), 小川 (2006), 水本 (2006)) を次のようにまと

めている。

1. 男女差は縮小しているが、従来の女性／男性専用とされてきた言語形式の中に、ほとんど使われなくなっているものと、現在でも使われているものがあること。
2. 従来、男性的あるいは女性的とされてきた言語形式が男性も女性も使う中立的な言語形式に移行する傾向にあること。
3. 女性が男性的な表現を使う場合には、「よ」に「ね」を加える、音調を変える等が男性的表現の緩和になっている可能性があること。

(鈴木 (2007):51 頁)

これを一言でまとめるならば、男女差は縮小しているということになる。

一方、テレビドラマや小説などの創作物の会話には、依然として話し方のスタイルに男女差があること (F 形式の使用) が指摘されており (水本 (2006))、それは筆者の認識とも合致する。

特定の作品の登場人物の話し方のスタイルを分析した研究に、遠藤 (1997)、下條 (2012)、朽方 (2017) がある。遠藤 (1997) は、NHK のテレビドラマ「レイコの歯医者さん」の登場人物のセリフに現れる自称・対称、文末形式、音変化の融合形を分析し、対話相手や状況に応じて F 形式・M 形式・中立形式を使い分けるレイコに対して、「レイコの使うことばの幅は非常に広い」とまとめている。下條 (2012) は、今野緒雪のライトノベルのシリーズ『マリア様がみてる』の登場人物の話し方のスタイルを、川端康成の少女小説『乙女の港』と比較する形で分析し、いわゆる「てよだわ言葉」を使うか否かが、キャラクタ造型に利用されていると指摘している。朽方 (2017) の『冴えない彼女の育てかた』の分析もこれに合致する⁽²¹⁾。

創作物における話し方のスタイルの研究として、以下のように定義される「役割語」がよく知られている。

ある特定の言葉づかい (語彙・語法・言い回し・イントネーション等) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等) を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像が提示されると、その人物がいかに使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。

(金水 (2003):205 頁)

しかしながら、創作物に登場する登場人物 (キャラクタ) は、対話相手や状況に応じて複数のスタイルを使い分けることもある (遠藤 (1997)) ため、キャラクタの話し方のスタイルを、すべて「役割語」という概念だけで説明するのは難しい。「役割語」がカバーする範囲は、ステレオタイプ的な人物像と結びつく言葉づかい、あるいは、「キャラ助詞 (特定のキャラクタを立てるために加えられたキャラ語尾 (定延 (2007)))」のような言葉づかいに限定されると考えるのが妥当であろう。

メイナード (2017) は、より広い範囲の言語現象を包括する「キャラクター・スピーク」という概念⁽²²⁾を提示し、ライトノベル、ケータイ小説、トーク番組、テレビドラマ、少女マンガのキャラクター・スピークを分析している。創作物の作者は、あらゆる手段を講じて魅力的な

(21) ただし、『マリア様がみてる』では「てよだわ言葉」を使わない「祐巳」は、読者の自己同一化の対象となる主人公であるのに対し、『冴えない彼女の育てかた』で「てよだわ言葉」を使わない「加藤恵」は主人公ではない。

(22) 「キャラ語」(メイナード (2012)) という概念の発展形と思われる。

キャラクタを造型する。しかしながら、それらをすべて研究対象とするのは、我々の手に余る。まずは、文字列としてのセリフとそこから汲み取れる情報に絞り、それを機械的に捉え、扱うにはどうしたらよいかという点に集中したいと筆者は考える。我々の研究の出発点は、「小説において、(文字列としての)セリフだけから、そのセリフの話者を同定できるか」であり、そのような切り口で、キャラクタと話し方のスタイルとの関係を明らかにすることを目指している。

小説の主要登場人物(キャラクタ)は、それぞれ個性を持っている。もちろん、そのキャラクタを造型するためにステレオタイプが利用されるが、それに加えて十分な肉付けがされるのが普通である。すでに述べたように、キャラクタの話し方のスタイルも一様ではなく、対話相手や状況に依存して複数のスタイルを使い分ける。あえて通常と異なるスタイルを使う「多人格モード」(因(2006))により、種々の効果を狙う場合もある。この「他人格モード」は、いわゆる「キャラ⁽²³⁾の使い分け」とみなすこともできよう。

個々のセリフの口調ベクトルは、セリフのスタイル的特徴を反映したベクトルであることが望ましい。そのため、一人のキャラクタが複数の話し方スタイルを選択的に使うのであれば、ベクトルの値が散らばるのは当然である。一方、特定の話者の代表口調ベクトル(話者ベクトル)は、その話者の話し方の標準的なスタイルを反映したベクトルであることが望ましい。標準的なスタイルが把握できて、初めて意図的な逸脱的使用が認識できるようになる。

9. おわりに

本稿では、エンターテインメント小説・ライトノベル 10 作品に登場する 24 名のキャラクタのセリフから文末の形式を収集し、整理・分析を試みた。具体的には、(1) 調査対象とする文末形式の範囲を定め、(2) それらを機能・意味に基づいて分類した後、(3) 話し手に応じて置換可能と考えられる文末形式の選択肢集合を整理した。さらに、整理の結果と口調ベクトルを比較し、口調ベクトルがセリフのスタイル的特徴を反映していることを確認した。

本研究の最大の課題は、調査対象としたセリフが少量であることである。今回の調査では、特定の作品に集中するのではなく、作品とキャラクタのバラエティを優先したため、それぞれのキャラクタのセリフ数は、25 から 70 とかなり少ない⁽²⁴⁾。より多くのセリフに対して整理・分析する必要があるのは間違いないが、キャラクター一人当たりのセリフ数を増やすことを優先すべきなのか、作品数・キャラクタ数を増やすことを優先すべきなのかは、判断に迷うところである。いずれにせよ、さらなるデータの拡充とその整理・分析が必要である。

文 献

小川早百合(2006). 「話しことばの終助詞の男女差の実際と意識—日本語教育での活用に向けて—」 日本語ジェンダー学会(編)『日本語とジェンダー』, pp. 39–51. ひつじ書房.

(23) メイナード(2017)は、キャラを「ステレオタイプ化されたキャラクターの一側面」と説明している。

(24) 話者ベクトルの作成に必要なセリフ数は 10 セリフ程度(石川ほか(2024))なので、このようなセリフ数を採用した。

- 石川和樹・佐藤理史・宮田玲・小川浩平 (2023). 「複数の手がかりを利用した小説発話の話者推定」 言語処理学会第 29 回年次大会発表論文集, pp. 2170–2175.
- 川北雄大・石川和樹・夏目和子・小川浩平・佐藤理史 (2024). 「口調弁別評価データセットの作成と口調エンコーダの評価」 情報処理学会研究報告, Vol.2024-NL-259 No.16.
- 石川和樹・小川浩平・佐藤理史 (2024). 「口調エンコーダを用いた小説発話の話者推定」 自然言語処理, 31:3. (掲載予定)
- 大森望・三村美衣 (2004). 『ライトノベル☆めった斬り!』 太田出版.
- 石井ぜんじ・太田祥暉・松浦恵介 (2022). 『ライトノベルの新潮流』 スタンダード株式会社.
- 金水敏 (2003). 『ヴァーチャル日本語役割語の謎』 岩波書店.
- 白川博之 (2009). 『「言いさし文」の研究』 くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003). 『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』 くろしお出版.
- 森田良行 (編) (2007). 『助詞・助動詞の辞典』 東京堂出版.
- 尾崎喜光 (1997). 「女性専用の文末形式のいま」 現代日本語研究会 (編) 『女性のことば—職場編』, pp. 33–51. ひつじ書房.
- 水本光美 (2006). 「テレビドラマと実社会における女性文末詞使用のずれにみるジェンダーフィルタ」 日本語ジェンダー学会 (編) 『日本語とジェンダー』, pp. 73–89. ひつじ書房.
- Laurens van der Maaten, and Geoffrey Hinton (2008). “Visualizing Data using t-SNE.” *Machine Learning Research*, 9, pp. 2579–2605.
- 鈴木睦 (2007). 「言葉の男女差と日本語教育」 日本語教育, 134, pp. 48–57.
- 遠藤織枝 (1997). 「ドラマのことば —NHK TV 「レイコさんの歯医者さん」をめぐって—」 日本語学, 16:1, pp. 67–79.
- 下條正純 (2012). 「「マリヤ様がみてる」における女性文末辞と人物描写」 コンテンツ文化史研究, 7, pp. 12–24.
- 朽方修一 (2017). 「ライトノベルにおける女性文末形式」 ヨーロッパ日本語教育 (21), pp. 148–153.
- 定延利之 (2007). 「キャラ助詞が現れる環境」 金水敏 (編) 『役割語研究の地平』. くろしお出版.
- メイナード泉子・K (2017). 『話者の言語哲学—日本語文化を彩るバリエーションとキャラクター—』 くろしお出版.
- メイナード泉子・K (2012). 『ライトノベル表現論』 明治書院.
- 因京子 (2006). 「談話ストラテジーとしてのジェンダー表示形式」 日本語ジェンダー学会 (編) 『日本語とジェンダー』, pp. 53–72. ひつじ書房.